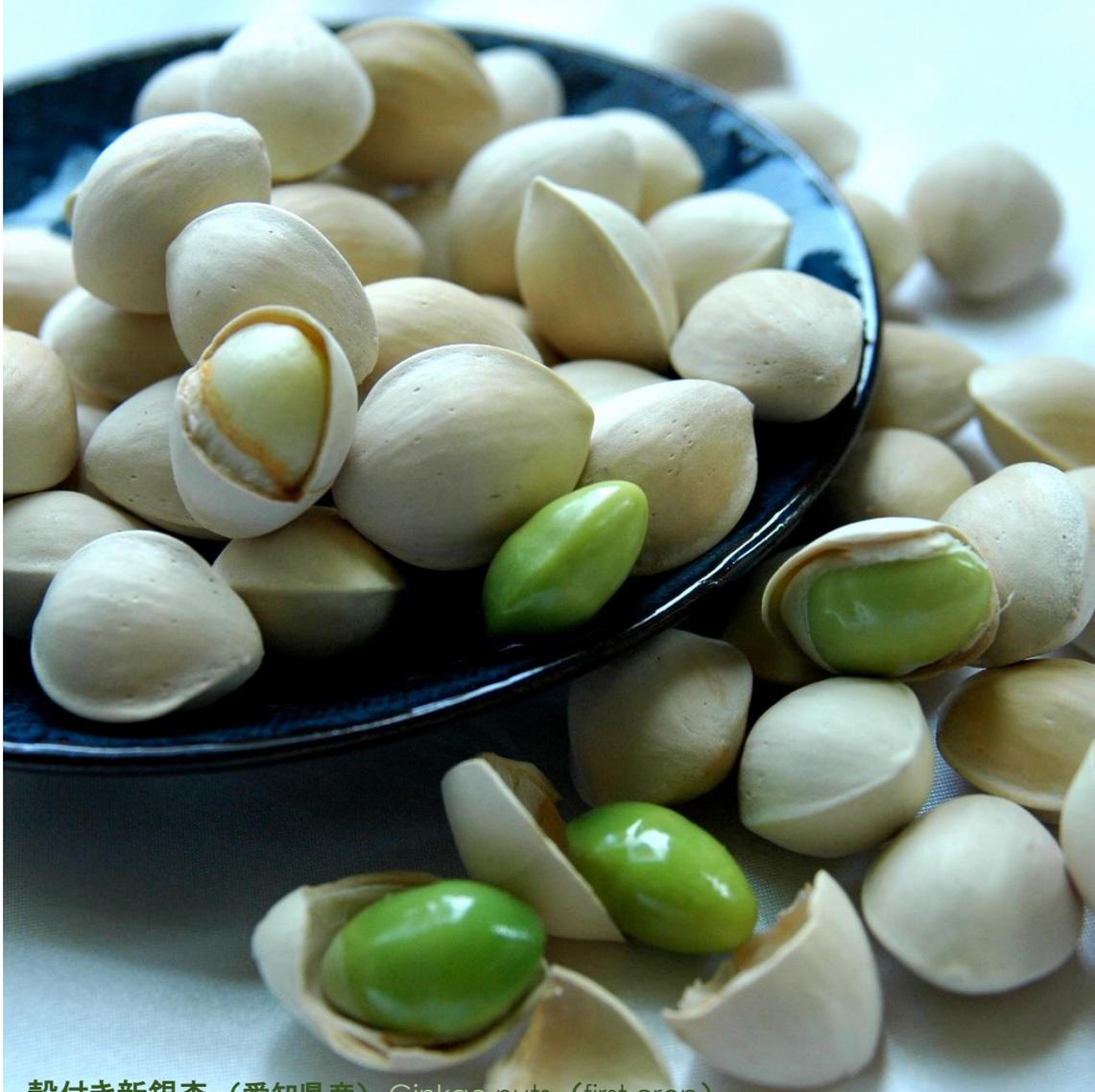


CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 5/Aug/2019/vol.551



殻付き新銀杏（愛知県産） Ginkgo nuts（first crop）

殻付きの新銀杏がスタートいたします。出回りは7月下旬より。まだ夏真っ盛りの時期ではありますが、8月初旬は二十四節気では早くも「立秋」を迎えます。暦は秋を告げ、その片鱗はまだまだとは言うものの、毎年このヒスイ色に輝く姿を見る度に、季節はしっかりと巡っているのだと感じる瞬間を与えてくれているような気がします。「新」と名の付く通りまだ殻は堅くはなく、剥いたその実（胚乳部分）に着く表皮も水分を感じるともソフトです。瑞々しい鮮やかな緑色がやっとな顔をだすと、その柔らかさにも少し感動します。生きた化石ともいわれる銀杏は、日本の歴史においては鎌倉時代ぐらいに渡来したともいわれていますが、その後日本でも歌にも詠まれ、神社仏閣の軒先には必ずあるというほど人に近い植物でもあります。樹はあまりにも大きく成長するものではありますが、そこから零れ落ちる小さな銀杏、特に新銀杏は「暑い暑い」と少し文句を言いたくなるぐらいの時期だからこそ、次の季節への移ろいをも示唆してくれる清涼剤となっているのかもしれない。